

令和6年度病害虫発生予報第2号（6月予報）概要表

令和6年5月28日
埼玉県病害虫防除所

作物名・病害虫名	予報内容	
	発生時期	発生量
<u>1 水稻（5月中旬までの移植）</u>		
（1）いもち病（葉いもち）		並
（2）縞葉枯病		並
（3）ヒメトビウンカ		多
（4）イネミズゾウムシ		並
<u>2 水稻（5月下旬以降の移植）の育苗期～移植期防除対策</u>		
（1）いもち病（育苗期）		
（2）もみ枯細菌病（育苗期）		
（3）縞葉枯病		
（4）ヒメトビウンカ		
（5）スクミリンゴガイ		
<u>3 なし</u>		
（1）黒星病		並
（2）ハダニ類		並
（3）果樹カメムシ類		多
（4）シンクイムシ類（ナシヒメシンクイ）		多
<u>4 なす（夏秋栽培）</u>		
（1）オオタバコガ		多
（2）ハダニ類		並
（3）アザミウマ類		多
<u>5 きゅうり（冬春栽培）</u>		
（1）アザミウマ類		多
（2）コナジラミ類		並
<u>6 ねぎ（秋冬栽培）</u>		
（1）さび病		並
（2）ネギアザミウマ		やや多

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ 並*： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。

作物名・病虫害名	予報内容	
	発生時期	発生量
<u>7 茶</u>		
(1) 炭疽病		並
(2) チャハマキ (第2世代幼虫)		並
(3) チャノコカクモンハマキ (第2世代幼虫)	早	並
(4) チャノホソガ (第2世代幼虫)		並
(5) チャノミドリヒメヨコバイ		多
(6) カンザワハダニ		並
(7) チャノキイロアザミウマ		やや多

— 埼玉県農薬危害防止運動実施中！ —
(令和6年5月1日～8月31日)

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ 並*： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。

令和6年度病虫害発生予報第2号（6月予報）

令和6年5月28日
埼玉県病虫害防除所

1 水稻（5月中旬までの移植）

病虫害名	発生予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
いもち病 (葉いもち)	並	○5月中旬の発生量：無 □5月1日～27日までの感染好適日出現日数：1日（平成2.3日）（±） □気象予報：気温はほぼ平年並、降水量は平年並か多い（±）	・本田での発生を認めたら、「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考に、防除対策を実施する。 ・ほ場内の置き苗は感染源となるため、早めに撤去する。
縞葉枯病	並	○5月中旬の発生量：無 □ヒメトビウンカ越冬世代幼虫の縞葉枯病ウイルス保毒虫率（ 参照3 ）：少（-） □6月のヒメトビウンカの予想発生量：多（+）	・本田での発生を認めたら、「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考に、ヒメトビウンカの防除対策を実施する。 ・被害株は保毒虫増加の原因となるため、早めに抜き取り処分する。
ヒメトビウンカ	多	○5月中旬の発生量：無 □5月の県予察ほ場における麦ほ場でのヒメトビウンカの生息密度：やや多（+） □5月の麦ほ場でのヒメトビウンカの生息密度（ 参照4 ）：多（+） □気象予報：気温はほぼ平年並、降水量は平年並か多い（±）	・本虫は縞葉枯病以外に黒すじ萎縮病も伝搬するため、縞葉枯病抵抗品種であっても、箱施薬しなかったほ場では本田防除を実施する。
イネミズゾウムシ	並	○5月中旬の発生量：並 □気象予報：気温はほぼ平年並（±）	・本田での発生を認めたら、速やかに本田防除を実施する。

参照1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照3：ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率調査結果（令和6年1月15日）

https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/data_himehodoku20240115.html

参照4：麦類ほ場内のヒメトビウンカの生息密度調査結果（令和6年5月24日）

https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/data_himetobi_mitsudo.html

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・**並***：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・**多****：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

2 水稻（5月下旬以降の移植）の育苗期～移植期防除対策

病害虫名	防除上注意すべき事項
いもち病 (育苗期)	<ul style="list-style-type: none"> ・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照 1) を参考に、種子予措を実施する。 ・育苗箱に発生した場合、薬剤による防除を実施し、日中は寒冷紗被覆をはがすなどして通風の改善を行う。
もみ枯細菌病 (育苗期)	<ul style="list-style-type: none"> ・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照 1) を参考に、育苗管理を実施する。 ・温湯消毒を行う場合、60℃10 分間処理では効果が不十分なことがある。そのため、薬剤による消毒を行うか、事前に十分な発芽率を確認した上で、60℃15 分間処理を行う。 ・病原細菌は高温で増殖するため、催芽時及び播種後の温度が 28℃以上にならないよう管理する。
縞葉枯病	<ul style="list-style-type: none"> ・コシヒカリ、キヌヒカリ等の本病感受性品種で箱施薬を実施しなかった場合は、「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照 1) を参考に、本病ウイルス媒介虫であるヒメトビウンカの本田防除を実施する。
スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ)	<ul style="list-style-type: none"> ・移植前の入水時から移植後 3 週間まで、取水口・排水口に 9 mm 目合のネットや金網を設置する。 ・常発地域では、移植時に薬剤の全面散布を行う。特に貝が集まりやすい深水部には重点的に散布する。 ・常発地域では、移植後の 3 週間を目安として浅水管理(水深 4cm 以下)を行う。
<p>【共通注意事項】(スクミリンゴガイを除く)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常発地や昨年多発した地域では、播種期～育苗期に箱施薬剤で防除を徹底する(縞葉枯病はヒメトビウンカ対象)。 	

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多****： 調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+) は助長または促進、(-) は抑制、(±) は傾向維持を意味します。

3 なし

病害虫名	発生予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
黒星病	並	○5月中旬の発生量：散見 □開花期から幼果期の降水量：多(+) □気象予報：気温はほぼ平年並、降水量は平年並か多い(+)	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌の発現を防ぐため、作用機構が同じ薬剤の連用を避ける。
ハダニ類	並	○5月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温はほぼ平年並、降水量は平年並か多い(±)	・ナミハダニ及びカンザワハダニは、5月以降に施設イチゴ、ナスなどから移動して発生が増加することがあるため、注意する。 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。
果樹 カメムシ類	多	○5月中旬の発生量：散見 □予察灯による誘殺数：多(+) □気象予報：気温はほぼ平年並、降水量は平年並か多い(±)	・5月10日に発表した「注意報第2号」(参照5)を参考に適期防除を実施する。 ・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・雑草及び防風垣の着果性樹木(イヌツゲ、ヒバ類など)、モモの果実及び開花時のカンキツ類などにも飛来し寄生するので、同時期に防除を行う。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照2)を参考に、発生動向に注意して防除を実施する。
シンクイ ムシ類 (ナシヒメ シンクイ)	多	○5月中旬の発生量：散見 □フェロモントラップによる越冬世代成虫誘殺数：多(+) □気象予報：気温はほぼ平年並、降水量は平年並か多い(±)	・4月15日に発表した「注意報第1号」(参照6)を参考に防除対策を実施する。 ・交信攪乱剤(コンフューザーN等)を速やかに設置する。ナシ園の周囲を含め広範囲で使用することが効果的である。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照2)を参考に、幼虫の発生初期に薬剤散布を行う。

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照 2：フェロモントラップ等調査データ <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

参照 5：令和 6 年度病害虫発生予察注意報第 2 号「果樹全般、果樹カメムシ類」
<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/chuiho-r6-2.html>

参照 6：令和 6 年度病害虫発生予察注意報第 1 号「核果類(うめ、すもも等)なし、ナシヒメシンクイ」
<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/chuiho-r6-1.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値(埼玉県の過去 10 年間の平均)との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多*****： 調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値(埼玉県の過去 10 年間の平均)との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+)は助長または促進、(-)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

4 なす（夏秋栽培）

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
オオタバコガ	多	○5月中旬の発生量：無 □フェロモントラップによる誘殺数：多（+） □気象予報：気温はほぼ平年並、降水量は平年並か多い（±）	・5月13日に発表した「注意報第3号」（ 参照7 ）を参考に適期防除を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」（ 参照2 ）を参考に、幼虫の発生初期に薬剤散布を行う。
ハダニ類	並	○5月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温はほぼ平年並、降水量は平年並か多い（±）	
アザミウマ類	多	○5月中旬の発生量：多 □気象予報：気温はほぼ平年並、降水量は平年並か多い（±）	
【共通注意事項】 <ul style="list-style-type: none"> ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を避けるため、作用機構が同じ薬剤の連用を避ける。 			

参照 2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

参照 7：令和 6 年度病害虫発生予察注意報第 3 号「野菜類・花き類、オオタバコガ」

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/chuiho-r6-3.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多*****： 調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

5 きゅうり（冬春栽培）

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
アザミウマ類	多	○5月中旬の発生量：多 □気象予報：気温はほぼ平年並 (±)	・本虫は黄化えそ病を伝搬するため、「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照 1)を参考に防除対策を実施する。
コナジラミ類	並	○5月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温はほぼ平年並 (±)	・本虫は退緑黄化病を伝搬するため、「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照 1)を参考に防除対策を実施する。
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を避けるため、作用機構が同じ薬剤の連用を避ける。 ・栽培終了後は、作物を抜根又は地際部から切断した後、施設を密閉して蒸し込みを行う。			

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

6 ねぎ（秋冬栽培）

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
さび病	並	○5月中旬の発生量：散見 □前年秋期の発生量：無（－） □気象予報：気温はほぼ平年並、降水量は平年並か多い (+)	
ネギ アザミウマ	やや多	○5月中旬の発生量：やや多 □気象予報：気温はほぼ平年並、降水量は平年並か多い (±)	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照 1)を参考に防除対策を実施する。 ・育苗期間中から防除対策を徹底する。 ・定植時の薬剤による防除を実施する。
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ薬剤の連用を避ける。			

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・並*：予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・多***：調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+)は助長または促進、(-)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

7 茶

病害虫名	発生予想	予報の根拠	防除上注意すべき事項
炭疽病	発生量並	○5月中旬の発生量：無 □県予察ほ場の越冬病葉数：やや少（－） □気象予報：気温はほぼ平年並、降水量は平年並か多い（±）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・「さやまかおり」「やぶきた」「こまかげ」「ふくみどり」は発生しやすいため、一番茶残葉の発病に特に注意する。
チャハマキ（第2世代幼虫）	発生量並	○5月中旬の発生量：やや少 □県予察灯の越冬世代成虫の誘殺数：少（－） □フェロモントラップによる越冬世代成虫の誘殺数：やや多（＋） □気象予報：気温はほぼ平年並、降水量は平年並か多い（±）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」（ 参照2 ）を参考に若齢幼虫を対象として防除を実施する。
チャノコカクモンハマキ（第2世代幼虫）	発生時期早 発生量並	○5月中旬の発生量：無 ■県予察ほ場の越冬世代成虫発蛾最盛日は5月8日（平年5月14日）：早（＋） □県予察灯の越冬世代成虫の誘殺数：少（－） □フェロモントラップによる越冬世代成虫の誘殺数：並（±） □気象予報：気温はほぼ平年並、降水量は平年並か多い（±）	・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」（ 参照2 ）を参考に若齢幼虫を対象として防除を実施する。
チャノホソガ（第2世代幼虫）	発生量並	○5月中旬の発生量：無 □県予察ほ場の第1世代幼虫による被害芽率：並（±） □フェロモントラップによる越冬世代成虫の誘殺数：少（－） □気象予報：気温はほぼ平年並、降水量は平年並か多い（±）	・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」（ 参照2 ）を参考に若齢幼虫を対象として防除を実施する。

参照1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多*****： 調査月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

病虫害名	発生予想	予報の根拠	防除上注意すべき事項
チャノミドリ ヒメヨコバイ	発生量 多	○5月中旬の発生量：多 □県予察ほ場の被害芽率：多（+） □気象予報：気温はほぼ平年並、降水量は平年並か多い（±）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・周辺雑草で繁殖するので除草を励行する。
カンザワ ハダニ	発生量 並	○5月中旬の発生量：やや多 □県予察ほ場の寄生葉率：やや少（-） □気象予報：気温はほぼ平年並、降水量は平年並か多い（±）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考に防除対策を実施する。
チャノキイロ アザミウマ	発生量 やや多	○5月中旬の発生量：多 □県予察ほ場の被害芽率：やや少（-） □気象予報：気温はほぼ平年並、降水量は平年並か多い（±）	

参照1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

＜農薬使用上の注意事項＞

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度、確認する。
特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 4 スピードスプレーヤを使用した防除ではドリフトが発生しやすいので、風のない日に適正な方法で散布する。
- 5 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。
- 6 農薬の最新情報は、[農薬登録情報提供システム（農林水産省）](#)から検索できます。
農薬登録情報提供システム（農林水産省） <https://pesticide.maff.go.jp/>

— 埼玉県農薬危害防止運動実施中！ —
(令和6年5月1日～8月31日)

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多****： 調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

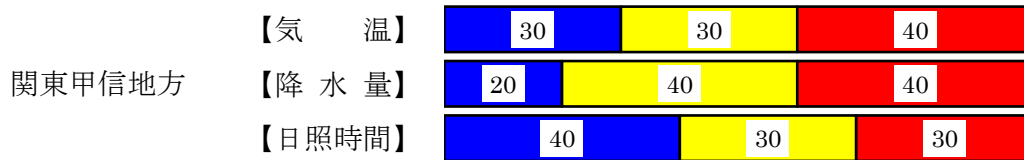
(参考) 気象概要 1 か月予報 (令和6年5月23日発表)

出典：気象庁ホームページ (https://www.jma.go.jp/longfcst/103_00.html)

<予報のポイント>

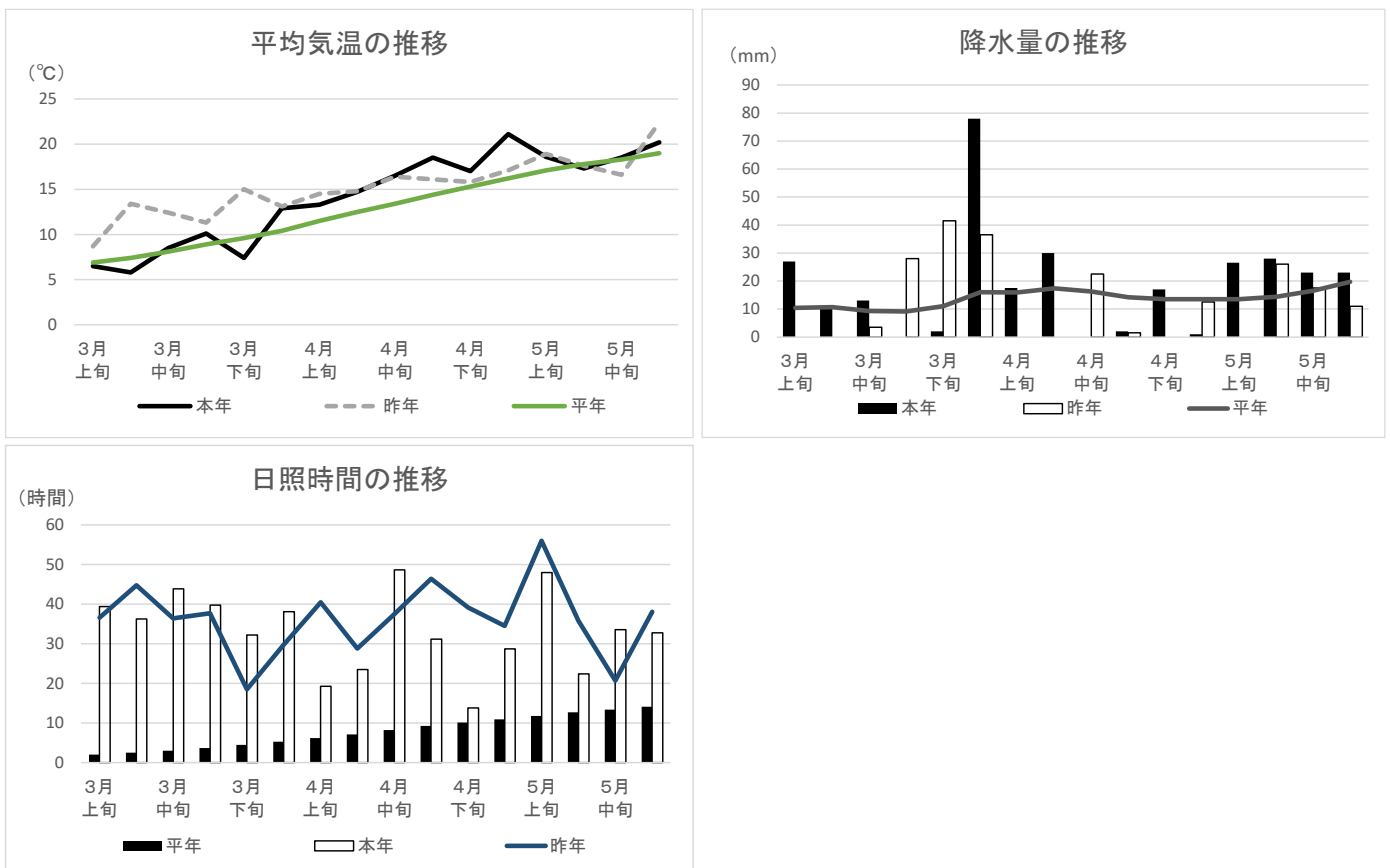
- ・向こう1か月の気温はほぼ平年並の見込みですが、2週目の気温は冷涼な空気の影響を受けやすく低い一方、3～4週目の気温は暖かい空気に覆われやすく高いでしょう。
- ・低気圧や前線の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は平年並か多いでしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例： ■ 低い (少ない) ■ 平年並 ■ 高い (多い)

(参考資料) 過去の平均気温、降水量、日照時間 (熊谷)



問い合わせ先
 埼玉県病虫害防除所
 〒360-0102 埼玉県熊谷市須賀広 784
 電話：048-539-0661 FAX：048-539-0663
 E-mail：k3603114@pref.saitama.lg.jp
<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0916/>